

秋田県における公共建築物整備の手引き

平成17年12月

秋田県建設交通部営繕課
秋田県教育庁総務課施設整備室
秋田県警察本部警務部会計課

はじめに

近年の公共建築物の整備を取り巻く環境は、エコ社会への対応、安全安心の確保、ユニバーサルデザインやバリアフリー化、施設の高機能化など多種多様な要請と課題に対して、財政事情が悪化するなかコスト縮減を図りながら的確に伝えていく必要があり、既存施設の老朽化対策も図らなければならない状況にあります。

また、本年4月には、「公共工事の品質は、価格と品質が総合的に優れた内容の契約がなされることにより、確保されなければならないこと」等を基本理念とする「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が施行され、県には発注者としての責務と共に市町村に対する発注者支援の努力義務が課せられました。

このような状況の下で行う営繕工事にあっては、完成後の管理運営形態に対する説明責任を果たして施設計画を図るとともに、既存施設の長寿命化を図るなど多様な県民の要請に応えられる施設整備を進めていく必要があり、建設時の費用にかかるコスト縮減はもとより、その後の維持管理費用を十分に意識した施設計画が重要であると考えます。

本手引きは、県の公共建築物における企画立案、設計、工事監督及び施設管理の各段階において、発注者の職員、設計受託者並びに施設管理者が考慮すべき基本的な事項を整理し、検討フロー、標準仕上げ表及びチェックリストとして取りまとめましたが、同じ地域特性のもとで計画される市町村の営繕工事にあっても、参考にしていただけるものと思います。この手引きが、社会情勢の変化等に応えながら改訂され、活用されることを期待します。

平成17年12月

目次

第1	基本事項	4
第2	検討事項	5
1	一般事項	
(1)	配置、平面及び立面計画	5
(2)	構造	5
(3)	仕上材	6
(4)	建具	7
(5)	外構	7
(6)	設備	
(6)-1	電気設備	7
(6)-2	機械設備	8
(7)	安全性	8
(8)	材料及び単価	9
(9)	施設管理	9
(10)	その他	9
2	地域の独自性	
(1)	秋田の気候、風土	10
(2)	地場産材利用	10
(3)	県の施策への配慮	11
3	評価等のフィードバック	11
第3	「秋田県における公共建築物整備の手引き」検討フロー	12
第4	標準仕上げ表	13
1	秋田型公共建築物標準仕上げ表 A-1 (RC造、事務所)	
2の1	秋田型公共建築物標準仕上げ表 B-1 (RC造、高等学校)	
2の2	秋田型公共建築物標準仕上げ表 B-2 (木造、高等学校)	
第5	「秋田県における公共建築物整備の手引き」チェックリスト	16

参考資料

施設保全マニュアル作成要領、作成例 (国土交通省大臣官房官庁営繕部HP参照)

※ 凡例：コスト縮減対策はアンダーライン項目

第1 基本事項

各種施設（各種公共施設、各種教育施設、警察諸施設）を整備する場合には国土交通省大臣官房官庁営繕部、文部科学省大臣官房文教施設部、警察庁総務課及び秋田県が制定した次に掲げる各種基準、指針等に準拠する。

（一部掲載）

●建設基準等

「建築設計基準」

「建築設備設計基準」

「官庁施設の基本的性能基準」 (国土交通省大臣官房官庁営繕部)

「国家機関の建築物及び付帯施設の位置、規模及び構造に関する基準」

(国土交通省告示)

「中学校施設整備指針」

「高等学校施設整備指針」

「盲学校・聾学校及び養護学校施設整備指針」 (文部科学省大臣官房文教施設部)

「留置場設計基準」

「取調室設置基準」

(警察庁総務課)

「秋田県駐在所施設整備基準」

(秋田県警察本部)

●維持管理基準等

「建築改修設計基準」

「国家機関の建築物等の保全に関する技術的基準」

「管理者のための建築物保全の手引き」

「施設保全マニュアル作成要領」 (国土交通省大臣官房官庁営繕部)

「安全で快適な学校施設を維持するために」

(文部科学省)

「建物維持保全の手引き」

(秋田県建設交通部営繕課)

●その他

「積雪寒冷地向住宅設計指針」

「四季を通じて快適な秋田型住宅」

「届出行為景観保全基準」

(秋田県)

「東北地方多雪・寒冷地設備設計要領」

(東北ブロック営繕主管課長会議)

第2 検討事項

各種施設の整備にあたっては、「第1 基本事項」を尊重するとともに、秋田県の公共建築物の整備方針として、次の項目について検討しなければならない。

ただし、施設に特殊性等が求められる場合は、個別に配慮すること。

1 一般事項

(1) 配置、平面及び立面計画

ア 建築物の配置計画は、敷地内の動線のみならず敷地周囲の整備、開発及び保全の方針を踏まえる等、土地利用計画に即したものとする。

イ 建築物は、機能性を十分に考慮して単純明快な意匠構成を採用するとともに、足場架設や施工が掛増しとなるような特殊な構造方法を避け、工期の短縮、維持管理費用の削減及び改修の容易性にも配慮するものとする。

ウ 建築物の外観意匠は、地域の歴史、文化及び風土に基づく街並み景観等の特性に配慮し、形態、色彩、素材、工法、構法等の視覚的要素の調和に努めるものとする。

エ 建築物の平面計画では、つぎのような自由度の確保に配慮するものとする。

(ア) 開放型を基本とした執務空間（必要に応じ、遮音性間仕切壁の採用を検討）。

(イ) 利用目的（学校にあっては男女生徒数の構成比率の変化）に応じた室用途の変更。

オ 窓などの開口部は、人工環境（照明灯具、換気扇など）に頼らない空間構成のために必要であり、有効活用を図るものとする。

ただし、吹き抜け開口部及び床面から天井までのガラス張りは、空調負荷の増大、結露の発生及び清掃等の維持管理費用の増大につながるため、必要最小限に抑えること。

カ 自然災害対策として敷地周辺における過去の被災状況を調査し、強風による防水材及び外装材の漏水並びに飛散の対策、落雪による施設損傷対策、雪の吹込による設備機能障害対策、湧水による地下室や地下ピットへの浸水対策、台風による塩害対策等を考慮した各部の納まりの検証と適切な材料の選定を図ること。

キ 敷地の緑化対策として、既存の樹木等がある場合は、建物の配置計画の工夫等により現地保存に努めるものとする。また、再築計画のある解体工事では、樹木の保存に努め緑化費の縮減を図るものとする。

(2) 構造

ア 合理的な構造計画により、経済性も考慮した躯体断面を設計すること。

イ 内部空間の構成にあっては、(1)のエの規定に基づき大断面構造部材を積極的に採用する。また、建築物の長寿命化性能（建築物が老朽化し取り壊すまで、多様な利用の目的に対応できる状態を維持していける性能）を確保する観点からも、構造計画の段階において十分検討すること。

ウ 建築物の階高及び天井高の検討は、つぎの各号による。

(ア) 所要室の機能及び将来の転用等を考慮したうえで、必要最小限の高さとする。

(イ) 大梁の露出が支障ない場合は、必要最小限の配管スペース等を確保したうえで、

躯体及び仕上げ数量を縮減し、暖冷房負荷の低減を図ること。

- (ウ) 最上階は上階用の配管スペースが必要ないため、標準階の階高以下とすること。
 なお、屋根面からの断熱対策には十分配慮が必要である。

エ 構造体に用いるコンクリートの種別及び強度は、建築物等の規模、構造種別、使用部位及び施工性を考慮して設計基準強度を決定するものとし、安易に高強度コンクリートを採用しないこと。(参考資料：建設大臣官房官庁営繕部監修「建築構造設計基準 第3章」)

オ ピットは、必要最小限の位置に適切な深さで設けること。

カ 地下ピット式の雨水貯水槽の計画を行なう場合は、災害発生時にあっても室内への噴出現象が生じないように、排水計画や排水機的能力についても十分検討すること。

(3) 仕上材

ア 各部位の納まりは、施工性及びコストに配慮した単純明快な納まりとすること。

イ 屋根仕上は、つぎの各号による。

(ア) 木造の屋根材は、ガルバリウム鋼板 γ 0.4程度を標準とする。ただし、海岸部等塩害が予想される場合はフッ素ガルバリウム鋼板 γ 0.4程度とする。

(イ) 金属板屋根の葺方については、特殊工法の採用を避け、一般的な工法(県内の格付け業者が有する能力によって施工可能な工法)を採用する(修繕時の対応に配慮する)。

(ウ) 屋根仕上は、小屋組材の振動及び変形への追従性能を十分検証して選択すること。

(エ) 金属板葺きは、漏水防止のため工法にあった適切な勾配を確保すると共に、雨水は自然流下させ、雨落ちで処理するよう検討すること。

(オ) RC造の屋根仕様にあっては、地域特性(雪おろし習慣等)に配慮すること。

ウ 外装仕上は、つぎの各号による。

(ア) RC造の外壁仕上げは、打放コンクリートにフッソ樹脂クリアー程度又は吹き付けタイル仕上げ程度とする。

(イ) 木造の雨掛部の外壁材等には、耐腐朽性能材料又は保護塗装を使用する。

(ウ) アルミパネル、タイル貼り、軒天のアルミルーバー等高価な材料使用は、必要性を検討する。

(エ) RC造の壁・床スラブ・梁・柱の断熱材施工範囲は、外壁芯から1m以上とする。

(オ) S造の外装材の留め付けピッチは、暴風時の材料のあおりによる漏水についても十分検討したうえで決定すること。

エ 内装仕上は、つぎの各号による。

(ア) 使用部位の利用環境に適した材料を選定すること(耐久性、吸音性、遮音性、強度及び耐震性の検討)。

(イ) 天井及び壁仕上げにあっては、吸音性、遮音性又は強度を要求される場合のみ2重張りとする。

(ウ) 内外壁に板材を使用する場合は、湿度変化による膨張や収縮を考慮すること。

- (エ) 一般床材は、ビニル床シート程度を標準とする（暖房効率は別途検討）。
- (オ) 損傷時の修復を考え、汎用品を採用する。
- (カ) 巾木は、既製品を採用する（木造の場合は、仕上材にあった材料を選定）。
- (キ) 体育館等の鋼製床組の高さは、メンテナンスに必要な高さを確保する。
- (ク) 水回部では石膏系セルフレベリング材（自動平滑仕上）は使用しないものとする。
- (ケ) 床のモルタル塗り仕上は精度を要求する場合に限るものとし、コンクリートコテ押えを標準とする。
- (コ) 照明効率を考え、内装材の色彩は高明度色を採用するものとする。
- オ 金属類は、つぎの各号による。
 - (ア) 水切り、窓台、笠木等は、特殊形状、カラー製品を避ける。
 - (イ) 使用部位の形状は統一し、加工手間、施工費等の縮減を図る。
- (4) 建具
 - ア 外部建具は、引違いシルバーアルミサッシとし、複層ガラスを標準とする。なお、沿岸部等塩害対策を必要とする場合は、特殊仕様も検討すること。
 - イ 木造建築物であっても、外部建具はアルミサッシを標準とする。（コスト縮減）
 - ウ 内部建具は、耐久性能の要求に応じて枠材の鋼製化及び鋼製軽量扉を検討する。
 - エ 外部建具は、建具廻りからの漏水及び水切板からの埃水による外壁汚染の防止に特に配慮する。
 - オ 管理の容易性に配慮し、外部の木製建具は、はめ殺し窓にしないこと。
- (5) 外構
 - ア 再生骨材、再生アスファルト等のリサイクル資材を活用する。
 - イ 構内舗装の路盤における凍上抑制層は、地盤状況を考慮の上検討する。
 - ウ 建築物の南側及び西側への広い舗装面（駐車場等）は、開口部からの輻射熱の進入を助長するので、遮熱ゾーンの設置を検討するか、避けるよう努めること。
 - エ 屋外排水設備は屋内排水設備との連続性に配慮するとともに、排水性能（排水勾配又は機械排水能力）は豪雨（50mm/h以上）を基準に流量計算すること。
 - オ マンホール及びグレーチングは、重機による除雪作業を考慮し耐荷重仕様とすること。
- (6) 設備
 - ア エネルギーセンター（機械室、電気室等）は、配線、配管延長及び系統を考慮の上、経済的な位置に設定する。
 - イ 機器類は発熱量の少ない省エネルギー型機器を採用し、熱負荷低減、結露発生抑制を図る。
 - ウ 将来の機器増設等に対応するため、情報技術の進歩にも追随できる汎用性のある機器を採用する。
- (6)-1 電気設備
 - ア 照明機器の選定にあっては、設計条件を満足する廉価機器を選定するとともに、効率の良い配置計画とする。

- (ア) 配置計画においては、ゾーニング（機能要求範囲）に配慮し、ランニングコストの低減に努める。
- a 所要室の照明のスイッチ系統は窓に平行方向にグループ化し、グループ毎の制御により光熱費の縮減を図る。
- b 廊下、トイレは窓等からの採光の有無を考慮し、明るい場所、暗い場所に分けた点滅計画とし光熱費の縮減を図る。
- (イ) 調光機能によるランニングコスト縮減は、必要最小限とする。
- (ロ) 照度設定は、所要室毎に十分検討の上、経済的照度を設定すること。
- (ハ) 高効率化器具の選定に当たっては、イニシャルコストとランニングコストの比較を行った上で採用の検討をおこなうこと。
- イ 照明器具の照度計算においては、実質照度に移行することの妥当性を検討する。
- ウ 事務スペース等の照明器具は、カバー・ルーバー無とし、照明効率をあげ設置台数を削減する。（VDT作業室にあっては、V分類グレア（輝度）規制を適用する。）
- エ 蛍光管等は、交換作業の容易さを考え、安価な汎用品を採用する。
- オ 天井高4.5m以上の室に設ける照明器具は、取り付け高さ、器具方式に配慮し、電球交換等が施設管理者自身で可能となるよう配慮すること。
- カ 電気盤は、回路数によって標準盤の採用を心がける。
- キ 照度においては、安易にJIS照度の中間値を採用せず、所要室、又はゾーンの使用状況を考慮したうえで計画する。
- ク 使用照明器具の機種は出来るだけ少なくするとともに汎用品とし、将来の故障交換を考慮した選定とする。
- ケ 照明の配置については、設計時から梁配置、天井の形状等を把握し、照明効率の良い配置計画とする。
- コ 電話設備については、ランニングコストの低減につながるIP電話等の導入もトータルコストで検討すること。
- (6)-2 機械設備
- ア 空調設備の方式選定にあっては、所要室の使用形態、時間帯に合わせた経済的方式を採用する。
- ・ 熱源中央方式、KHP（灯油ヒートポンプエアコン）による個別方式、FF式暖房機による個別方式等
- イ 屋外散水、トイレ洗浄水等にあっては、雨水利用、浄化槽処理水利用も考慮する。
イニシャルコストによる費用対効果を精査の上、必要性を検討すること。
- ウ ボイラー室、機械室、シャフトの面積及び配置計画は、機器更新に配慮すること。
- (7) 安全性
- ア 各種マニュアルによる整備のみでは、実際の利用者の声が反映されない場合があるため、施設利用対象者を把握した上で各部の納まりを検討する等、利用者の視点に立った設計に努めること。
- イ 秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例を遵守しつつ、つぎのようなユニバーサルデザインに配慮した施設計画とする。

- (7) 施設総合案内板等の文字サイズ、配色、子供用のルビ及び設置位置に特に配慮すること。
- (イ) 介護者が必要な場合のスペース、器具形態、配置等を十分検討する。
- (ウ) 転落防止用手摺にあっては、取付強度、手摺り子の形状（横棧禁止）に配慮し、事故を未然に防止する。
- ウ 構造上、使用上及び防災上の安全性の他に、使用材料の安全性を確認すること。（アスベスト含有建材は使用しないものとする。）
- (8) 材料及び単価
- ア 使用材料、機器の選定に当たっては、資材単価、施工手間、工期等を含めたトータルコストで縮減を検討する。
- イ 設計単価の採用においては、市場単価、見積単価を検討する。
- ウ 品質、性能、施工方法、価格、市場性等を十分考慮し、コストに配慮した2次製品等を活用する。例：コンクリート2次製品、FRP排水桝、側溝
- (9) 施設管理
- ア 施設の完成引渡にあたっては、施設管理者に対して施設保全マニュアル等を配布のうえ適正点検及び管理を徹底させること（管理が容易な設備システムの採用が必要）。
- ・ 適正点検・管理は建築物、建築設備の長寿命化（1.5～2倍）に資する。
- イ 施設整備事業課は、施設管理開始後も管理状況について施設管理者に対し定期的に報告させ、状況把握すると共に適正管理を指導すること。（建築基準法第12条第2項及び第4項（平成17年6月施行）の規定に基づく調査を含む。）
- ウ 雪害防止対策のための維持管理方法（雪処理の必要性及び方法）を徹底させること。
- エ 維持管理に必要な資料（取扱説明書、完成図書一式）及び修繕履歴の保管継承の徹底を指導すること。
- (10) その他
- ア 改築等の場合にあつては、維持管理費用の増しを極力抑えた設計に努めること。
- イ 施設整備にあつては、遊休施設の活用も視野におくこと。（構想段階）
参考用語解説（リフォーム、リノベーション、リニューアル、リファイン手法の検討）
- リフォーム : 経年により陳腐化した建物の内装、外装、設備、デザインなどを改良すること。
- リノベーション: 古い建物を新たな使用に耐えうるよう修繕、改造すること。
- リニューアル : 改装。既存の建物の外装、内装などの仕上げ部分を改変すること。
- リファイン : 使用価値が低減した建物の使用可能な部分、価値ある部分を出来るだけ残し、新しい機能や要素を付加し、より洗練された新しい命を建物に吹き込む手法。
- ウ 施設によっては、デザインビルド（設計・施工一括発注）の活用も検討する。

エ 構造躯体の耐用年数と仕上材、機器類の耐用年数は一致しないため、当初から一定時期のリニューアルを念頭に置き検討する。

オ 部材及び詳細の標準化及び簡素化、省力化を図った工法の採用等によりコスト縮減を図ること。

カ 内外装材及びディテールは、清掃作業が容易なもの又は不要なものとする。

キ 通行に支障のある突出物、使用中の破損予想を検証すること。

ク 解体工事の安全性は、設計図書の有無と施工計画によるところが大きいため、建築工事の設計の際は、解体工事を視野に入れて実数量表示設計に努めるとともに、完成図書及び構造計算書の保存を徹底し、設計の省力化と工事の安全性確保を図ること。

2 地域の独自性

(1) 秋田の気候、風土

ア 雪対策

- (ア) 雪おろしによる屋根材破損対策、雪処理スペース確保をすること。
- (イ) 雪塊飛散距離を確保若しくは防護柵を設置し、落雪事故防止を図ること。
- (ロ) 冬期季節風(北西の風)の風向に配慮した出入口位置、防風壁設置とすること。
- (ハ) 吹き溜まりによる出入口の閉鎖等機能障害が発生しないようにすること。
- (ニ) 巻垂れによる窓等の破損防止対策をすること(巻垂れ防止柵等)。
- (ホ) 雨樋、外壁材の凍結による破損防止、すがもれ防止を考えた納まりとする。(隠し樋は、凍害により破損しやすいことから、採用には注意が必要。)
- (ヘ) 屋根雪落下による人身事故、物損被害の防止対策を施すこと。
- (ヘ) 勾配屋根の形状は単純形状とし、谷は極力設けないこと(滑雪時の損傷防止)。
- (ヘ) 融雪期の融雪水の排水計画に留意のこと。
- (コ) 除排雪箇所の縮小等に配慮し、維持管理費(除排雪費)の縮減に努めること。
- (ケ) 吸気口の位置は、最多風方向を避けるとともに、排気口近傍を避けること。

イ 結露対策

- (ア) 外壁コンクリートの凍結融解による耐久性劣化や、内部結露による木材の腐朽、湿気カビ対策に配慮すること(壁体の構成・納まりの検討)。
- (イ) 冬期における発生結露対策を十分に検討すること(十分な結露受等の設置)。

ウ 風利用

- (ア) 夏期の風向を考慮の上、平面的・立体的に2以上の通風経路を確保し、換気・冷房負荷の低減を検討すること。
- (イ) 袖壁、庇による利風(風の室内への導入効果大)効果向上を検討すること。

エ その他

- (ア) 浸水被害を受けやすい施設の設備機器の設置等については、設置階、水防区画いずれかの検証をすること。

(2) 地場産材利用

ア 建設地域の地場産材としての建築資材は、積極的な利用に努めること。(「東北の住宅・地場産材事例集：国土交通省東北地方整備局作成」参照)

イ 県内企業が開発した建築資材について、製造者から使用要請があった場合は、工事発注仕様と同等でありかつ採用単価以内での条件を満足する場合は、極力採用に心がける。

ウ 地場産の特殊技術製品の施設への利用も検討すること。

例：漆器室名札、曲げわっぱ照明シェード等

(3) 県の施策への対応

ア 秋田杉等県産材の活用

「公共建築物の木造化及び内装木質化の推進に関する基準」を遵守し、材料の特性を生かした使用方法を検討して県産材の使用、普及啓発に努める。

イ 県内産エコ製品の普及

ISO14001 認証取得事業所として、廃棄物の抑制、再利用をすることで処分費用、処分場建設費を削減することとなる意義を県民に周知するため、適材適所に使用する努力をすること。(秋田県リサイクル製品認定制度による認定製品一覧表参照)

ウ 自然エネルギーの採用

太陽光発電、風力発電、雪冷房及び地中熱利用等、新技術の活用を図り、地球温暖化防止に寄与すること。

- ・ 気象データ等によると、冬期の日射は不十分であるが夏期の日射エネルギーは東北太平洋側より高い、地中冷熱のポテンシャルは高い、地中温熱のポテンシャルは低い、風力ポテンシャルは高いという結果があることから、大規模プロジェクトにあっては、建設地のデータを収集し、いずれかの活用を図るよう検討すること。

3 評価等のフィードバック

- (1) 契約上の瑕疵点検時における指摘事項発生原因を検証すること。
- (2) 施設運用開始後に顧客満足度調査等を実施し、利用者、管理者が実際に施設を利用して感じた評価及び施設運用・管理上の問題点等を洗い出し、計画・設計内容の良否を検証すること。
- (3) 検証結果をデータ蓄積し、以後の施設整備、施設改修に活用すること。

第3 「秋田県における公共建築物整備の手引き」検討フロー

検討時期	検討項目
事業構想段階	<ul style="list-style-type: none"> ・「秋田県における施設整備の手引き」の認識 ・既存ストックの活用 ・秋田県の施策への対応 ・デザインビルドの採用の可否 ・自然災害 ・土地利用制限の把握
↓ 基本設計段階	<p>検討事項にかかる対応方針の伝達及び確認</p> <p>1 一般事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 配置、平面及び立面計画 (2) 構造 (3) 仕上材 (4) 建具 (5) 外構 (6) 設備 <li style="padding-left: 20px;">(6)-1 電気設備 <li style="padding-left: 20px;">(6)-2 機械設備 (7) 安全性 (8) 材料及び単価 (10) その他 <p>2 地域の独自性</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 秋田の気候、風土 (2) 地場産材利用 (3) 県の施策への対応
↓ 実施設計段階	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計時の伝達事項及び確認事項の反映 ・採用単価の妥当性 ・各部詳細の納まり、施工性
↓ 設計審査段階	<ul style="list-style-type: none"> ・設計意図の確認 ・設計内容の詳細確認（チェックリスト） ・コスト管理 ・各種事故、災害防止対策の内容確認
↓ 工事監督段階	<ul style="list-style-type: none"> ・設計意図との整合性・仕様、納まりの検討
↓ 引き渡し段階	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の完成引渡
↓ 施設管理段階	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的報告 ・雪害防止対策 ・修繕履歴の保管継承
↓ 施設運用段階	<ul style="list-style-type: none"> ・評価のフィードバック

第4 標準仕様

この仕様は、標準的な施設整備内容を基本に作成したものであり、施設の特異性等、所要室の特異性が求められる場合はこの限りではない。

1 秋田型公共建築物標準仕上げ表 A-1 (RC造、事務所)

構造	RC造
----	-----

● 外装仕上

区分	仕上	仕様
事務所	外壁	・吹付けタイル仕上げ(複層塗材E) ・化粧打放しコンクリート仕上げ(フッ素樹脂クリアー) ※外壁増打ちコンクリート(目地深さ)25mm以下 断熱仕様
	屋根	・露出防水絶縁工法(D-1) ・保護防水絶縁工法(B-2) ※屋上の利用、雪下ろしの習慣がある場合等に適用 断熱仕様
	開口部	・出入口戸ステンレス、アルミ・窓アルミサッシ(複層ガラス) ※・FL+900mm以下の部分及びトップライト、ハイトは、強化ガラスor 飛散防止フィルム貼り・必要に応じて衝突防止サイン

● 内装仕上

室名称	仕上部位	建築		電気設備 照明器具仕様 (ベース照明)	機械設備 基本方式 冷暖房設備(各室)	熱源中央方式(冷温水発生機) 換気設備	
		下地	仕上				
一般事務室	階高 3,700mm 天井高 2,700mm	床	セルフレベリング	タイルカーペット t6.5 (OAフロアH=50)	Hf32W埋込型 下面開放 500lx	熱源中央方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:鋼製軽量扉(見込40)一鋼製枠				
所長室 兼応接室	階高 mm 天井高 2,700mm	床	セルフレベリング	タイルカーペット t6.5	Hf32W埋込型 下面開放 500lx	熱源中央方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾木		木質系巾木OSCL H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	杉板 ア12(合板 ア12下地)OSCL H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	ビニールクロス貼+石膏ボード ア12.5			
		天井	軽量鉄骨天井	ロックウール吸音板 ア9+石膏ボード ア9.5捨張り			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:木製建具一銘木合板(見込40)一鋼製枠				
会議室	階高 mm 天井高 2,700mm	床	セルフレベリング	タイルカーペット t6.5	Hf32W埋込型 下面開放 500lx	熱源中央方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾木		木質系巾木OSCL H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	杉板 ア12(合板 ア12下地)OSCL H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	ビニールクロス貼+石膏ボード ア12.5			
		天井	軽量鉄骨天井	ロックウール吸音板 ア9+石膏ボード ア9.5捨張り			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:木製建具一銘木合板(見込40)一鋼製枠				
電算機室	階高 mm 天井高 2,700mm	床	セルフレベリング	タイルカーペット t6.5 (OAフロアH=50)	Hf32W埋込型 ルーバー付 500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	ロックウール吸音板 ア9+石膏ボード ア9.5捨張り			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:鋼製軽量扉(見込40)一鋼製枠				
玄関 玄関ホール	階高 mm 天井高 2,700mm	床	モルタル、セルフレベリング	磁器質床タイル150角、長尺ビニール床シート t2	Hf32W埋込型 下面開放 200lx	なし	送排風機
		巾木		テラゾー(又は人工大理石) H=100、ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	視覚障害者誘導用ブロック				
廊下	階高 mm 天井高 2,500mm	床	セルフレベリング	長尺ビニール床シート t2	Hf32W埋込型 下面開放 100lx	なし	送排風機
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項					
階段	階高 mm 天井高 mm	床	モルタル	長尺ビニール床シート t2	ブラケットタイプ階段付 100lx 非常照明は適宜	なし	なし
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	視覚障害者誘導用ブロック				
更衣室	階高 mm 天井高 2,500mm	床	セルフレベリング	長尺ビニール床シート t2	HF32W露出型 75lx	熱源中央方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5+9.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:鋼製軽量扉(見込40)一鋼製枠				
備品庫	階高 mm 天井高 2,500mm	床	セルフレベリング	長尺ビニール床シート t2	Hf32W露出型 75lx	なし	天井換気扇
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5 EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード ア12.5 EP			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:鋼製軽量扉(見込40)一鋼製枠				
トイレ	階高 mm 天井高 2,500mm	床	セルフレベリング	抗菌性長尺ビニール床シート(防滑仕様) t2、汚垂石:D600	HF32W埋込型 下面開放、人感センサー 100lx	電気暖房機	天井換気扇
		巾木		ビニール巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	化粧珪藻土76Or 珪藻土76V.P +耐水石膏ボード ア12.5			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード ア9.5			
		廻り縁	塩ビ製				
		特記事項	内部出入口建具:鋼製軽量扉(見込40)一鋼製枠、トイレブラスメーラミン化粧合板パネル				

2の1 秋田型公共建築物標準仕上げ表 B-1 (RC造、高等学校)

構 造	RC造
-----	-----

● 外装仕上

区分	仕 様	
	仕 上	仕 様
高等学校	外 壁	・吹き付けタイル仕上げ(複層塗材E) ・化粧打ち出しコンクリート仕上げ(フッ素樹脂クリアー) ※外壁増打ちコンクリートは25mm以下 断熱仕様 ・押出法ポリスチレンフォーム保温板2種b 725 同等以上 ※・スラブ・梁の折り返しは、外壁面から1000mm以上・地中梁等の折り下げは、GL-400mm以上
	屋 根	・露出防水絶縁工法(D-1) ・保護防水絶縁工法(B-2) ※屋上の利用、雪下ろしの習慣がある場合等に適用 断熱仕様 ・押出法ポリスチレンフォーム保温板2種b 725 同等以上
	開 口 部	・アルミサッシ(複層ガラス) ※・FL+900mm以下の部分及びトップライト、ハイスایدは、強化ガラス or 飛散防止フィルム貼り ・必要に応じて衝突防止サイン

● 内装仕上

室 名 称	区 分	建 築		電 気 設 備	機 械 設 備		
		仕上部位	仕 様	照明器具仕様 (ベース照明)	基本方式 冷暖房設備(各室)	熱源中央方式(温水発生機) 換気設備	
昇降口	階高 3,700mm 天井高 2,700mm	床	モルタル Or セルフレベリング	磁器質床タイル150角、ビニル床シート72	HF32W×2 埋込下面開放 もしくは同等品 設計照度:100lx	熱源中央方式暖房	送排風機
		巾 木		テラゾー Or 人工大理石 H100、ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+硬質石膏ボード79.5+EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
廊下	階高 mm 天井高 2,700 mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート72	HF32W×2 埋込下面開放 または同等品 設計照度:100lx	なし	送排風機
		巾 木		ビニル巾木 H=60 Or 木製巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+硬質石膏ボード79.5+EP Or 合板79+杉板712 H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+硬質石膏ボード79.5+EP			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項	木部塗装 CL Or OSCL (共通事項)						
階段	階高 mm 天井高 2,700mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート72	HF32W×2 埋込下面開放 または 27Wブラケット階段灯 設計照度:100lx ※ヒートハイス等は非常照明付	なし	なし
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+硬質石膏ボード79.5+EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
事務室	階高 mm 天井高 2,700mm	床		タイルカーペット76.5 OA707(H=50)	HF32W×2 埋込下面開放 照明制御(昼光制御) 設計照度:500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+石膏ボード79.5+E.P			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項	壁の仕様については、防火上主要な間仕切りを除く(共通事項)						
校長室	階高 mm 天井高 2,700mm	床	モルタル Or セルフレベリング	タイルカーペット76.5	HF32W×2 埋込下面開放 7ヶ所カーペット付 設計照度:500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		木製巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	合板79+杉板712 H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+ビニルクロス貼			
		天 井	軽量鉄骨天井	石膏ボード79.5+ロックウール吸音板79			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
職員室	階高 mm 天井高 2,700mm	床		タイルカーペット76.5 OA707(H=50)	HF32W×2 埋込下面開放 照明制御(昼光制御) 設計照度:500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+石膏ボード79.5+E.P			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
会議室	階高 mm 天井高 2,700 mm	床	モルタル Or セルフレベリング	タイルカーペット76.5	HF32W×2 埋込下面開放 設計照度:500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		木製巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	合板79+杉板712 H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+ビニルクロス貼			
		天 井	軽量鉄骨天井	石膏ボード79.5+ロックウール吸音板79			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
保健室	階高 mm 天井高 2,700mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート72	HF32W×2 埋込下面開放 設計照度:500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+石膏ボード79.5+E.P			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
WC	階高 mm 天井高 2,500mm	床	モルタル Or セルフレベリング	抗菌性ビニル床シート72(防滑仕様) オグレス	HF32W×2 埋込下面開放 人感センサー制御 設計照度:100lx	電気暖房機	天井換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	耐水石膏ボード712.5+化粧ケイカル板76 Or ケイカル板76+V.P			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
多目的WC	階高 mm 天井高 2,400 mm	床	モルタル Or セルフレベリング	抗菌性ビニル床シート72(防滑仕様)	HF32W×2 埋込下面開放 人感センサー制御 設計照度:100lx	電気暖房機	天井換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	耐水石膏ボード712.5+化粧ケイカル板76 Or ケイカル板76+V.P			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
普通教室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	複合フローリング715	HF32W×2 露出型スクリーン 設計照度:500lx 黒板灯×2 黒板面設計照度:500lx	熱源中央方式暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		木巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	合板79+杉板712 H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	合板712+ビニルクロス貼(掲示タイプ)			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項	・多目的教室を含む・前後の出入り口戸に窓(0.1m程度)をつけ、教室内部が見えるようにする。						
理科実験室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート72(化学実験室等 耐薬品ビニルシート72)	HF32W×2 露出型スクリーン 設計照度:500lx 黒板灯×2 黒板面設計照度:500lx	熱源中央方式暖房	天井換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+硬質石膏ボード79.5+EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	化粧石膏ボード79.5			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
美術室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	耐薬品ビニル床シート72	HF32W×2 露出型スクリーン 設計照度:500lx 黒板灯×2 黒板面設計照度:500lx	熱源中央方式暖房	天井換気扇
		巾 木		ビニル巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+硬質石膏ボード79.5+EP			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	同上			
		天 井	軽量鉄骨天井	有孔石膏ボード79.5(ウラスケル32kg敷き込み)+EP			
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							
図書室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	複合フローリング張り715 (一部タイルカーペット76.5)	HF32W×2 埋込下面開放 ルーフ付き 設計照度:500lx	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
		巾 木		木製巾木 H=60			
		壁腰下	軽量鉄骨壁	合板79+杉板712 H=900			
		壁腰上	軽量鉄骨壁	石膏ボード712.5+ビニルクロス貼			
		天 井	軽量鉄骨天井				
		廻り縁	塩ビ製				
特記事項							

用途	階高 mm 天井高 mm	天 井		石膏ボード	吸音材	暖房	換気
		種類	仕様				
コンピュータ室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	軽量鉄骨天井	石膏ボード	79.5+ロックウール吸音板	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
調理実習室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート	72(防滑仕様)	熱源中央方式暖房	天井換気扇
被服実習室	階高 mm 天井高 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート	72	熱源中央方式暖房	天井換気扇
音楽室	階高 mm 天井高 3,000mm ~ 3,600mm	床	モルタル Or セルフレベリング	タイル	6.5	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
武道場	階高 mm 天井高 3,600mm	床	鋼製床組	合板	15+複合フローリングボード	なし	有圧換気扇
体育館	階高 mm 天井高 7,000mm ~ 12,500mm	床	鋼製床組	合板	15+複合フローリングボード	なし	有圧換気扇
機械室	階高 mm 天井高 4,000mm	床	モルタル	防塵塗装	(ウレタン系)	なし	有圧換気扇
倉庫・物置	階高 mm 天井高 2,400mm ~ 3,000mm	床	モルタル	モルタル金鍍仕上げ Or	コンクリート直均し金鍍仕上げ	なし	天井換気扇
更衣室	階高 mm 天井高 2,500mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート	72	電気暖房機	天井換気扇
セミナー 宿泊室	階高 mm 天井高 2,400mm ~ 2,500mm	床	モルタル Or セルフレベリング	複合フローリング	715	F F 式暖房機	天井換気扇
食堂	階高 mm 天井高 2,500mm ~ 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	ビニル床シート	72	個別方式冷暖房	全熱交換形換気扇
厨房	階高 mm 天井高 2,500mm ~ 3,000mm	床	モルタル Or セルフレベリング	合成樹脂塗床	(エポキシ系)	個別方式冷暖房	天井換気扇 厨房用排気ファン
浴室	階高 mm 天井高 2,400mm ~ 2,500mm	床	(アスファルト防水)モルタル	耐凍害性タイル	100角	なし	天井換気扇

2の2 秋田型公共建築物標準仕上げ表 B-2 (W造、高等学校)

構 造	W造
-----	----

● 外装仕上

区分	仕 様	
	外 壁	屋 根
高等学校	仕 上	[軒の出があり雨掛かりが少ない部分] 杉羽目板張り 718 (W90) + 防腐スチン2回塗
	仕 上	[雨掛かりが多い部分] ガルバリウム鋼板 70.4 (・立ハケ葺・角形スチンドル等)
開口部	仕 上	[一般の地域] ガルバリウム鋼板 70.4 (・瓦葺葺き・立ハケ葺・横平葺き等)
	仕 上	[塩害のおそれのある地域] フッ素ガルバリウム鋼板 70.4 程度を使用
		RC構造の仕上げ表参照

● 内装仕上 (B-1を参照のうえ、木造に応じた仕様とする。)

第5 「秋田県における公共建築物整備の手引き」チェックリスト

検討段階	検討項目	対象者					検討のポイント
		事業主管課	営繕課	設計者	工事施工者	施設管理者	
企画構想	・「秋田県における施設整備の手引き」の認識	○	○				<input type="checkbox"/> 手引きの目的及び記載内容の理解
	・既存ストックの活用						<input type="checkbox"/> 整備地区にある遊休施設の状況把握、改修活用の検討
	・秋田県の施策への対応						<input type="checkbox"/> 秋田杉等県産材の利活用、地場で開発された技術、建築資材等の採用
	・デザインビルドの採用の可否						<input type="checkbox"/> コスト縮減手段としてデザインビルド(設計・施工一括発注)活用の検討
	・自然災害						<input type="checkbox"/> 敷地周辺の過去の災害発生状況の把握と、地形及び気象を踏まえた自然災害対応条件の検討
基本設計	検討事項にかかる対応方針の伝達及び確認						<input type="checkbox"/> 敷地に係る土地利用制限、整備、開発、保全等の計画内容確認
	1 一般事項						* <u>アンダーラインの項目は、主としてコスト縮減にかかる検討</u>
	(1) 配置、平面及び立面計画						敷地内動線の考慮、敷地周囲の土地利用計画に即した計画の検討
	ア 配置計画						<input type="checkbox"/> 機能性を十分に考慮した単純明快な意匠構成の採用
	イ 建築物						<input type="checkbox"/> 足場架設や施工が掛増しとなるような特殊な構造方法採用の適否の検討
	ウ 外観意匠						<input type="checkbox"/> 工期の短縮、維持管理費用の削減及び改修の容易性の検討
	エ 平面計画						<input type="checkbox"/> 歴史、文化及び風土に基づく街並み景観等地域特性の検討
	オ 窓などの開口部						<input type="checkbox"/> 開放型を基本とした執務空間の検討(必要に応じ、遮音性間仕切壁を採用)
	カ 自然災害対策						<input type="checkbox"/> 利用目的(学校は男女構成比率の変化)に応じた室用途(トイレ、更衣室を含む)の変更への配慮
	キ 敷地の緑化対策						<input type="checkbox"/> 人工環境(照明灯具、換気扇など)に頼らない空間構成の検討
	(2) 構造						<input type="checkbox"/> 空調効率に配慮した開口部の検討
	ア 合理的な構造計画						<input type="checkbox"/> 敷地周辺の過去の被災状況に基づく強風対策、落雪対策、雪害対策、浸水対策及び塩害対策の検討
	イ 内部空間の構成						<input type="checkbox"/> 既存樹木等の現地保存及び緑化費縮減の検討
	ウ 階高及び天井高						<input type="checkbox"/> 経済性を考慮した躯体断面の設計
	エ コンクリート種別及び強度						<input type="checkbox"/> 大断面構造部材の採用等、建築物の長寿命化性能の確保に資する構造計画の検討
	オ ピット						合理的な必要最小限の高さの実現を目途とする次の事項の検討
	カ 地下ピット式の雨水貯水槽						<input type="checkbox"/> 躯体及び仕上げ数量の縮減による暖冷房負荷の低減
	(3) 仕上材						<input type="checkbox"/> 最上階の階高(標準階の階高以下)
	ア 各部位の納まり						<input type="checkbox"/> 屋根面からの断熱対策
	イ 屋根仕上						<input type="checkbox"/> 建築物の規模、構造、使用部位及び施工性を考慮した設計基準強度の検討
	ウ 外装仕上						<input type="checkbox"/> 位置及び深さの検討
	エ 内装仕上						<input type="checkbox"/> 災害時を考慮した排水計画
	オ 金属類						<input type="checkbox"/> 施工性及びコストに配慮した単純明快な納まり
	(4) 建具						<input type="checkbox"/> 立地環境に応じた適切な屋根材(鋼板)の選定
	(5) 外構						<input type="checkbox"/> 一般的な工法(県内の格付け業者が有する能力によって施工可能な工法)による葺方の採用
	(6) 設備						<input type="checkbox"/> 小屋組材の振動及び変形への追従性能を考慮した屋根仕上の検討
	(6)-1 電気設備						<input type="checkbox"/> 適切な勾配(金属板葺きの場合)の確保と雨落ち処理の検討
	ア 機器の選定						<input type="checkbox"/> 雪おろし習慣等の地域特性への配慮
	イ 照度計算						<input type="checkbox"/> 簡素で耐久性、耐候性、対腐朽性のある材料又は保護仕上げの検討
	ウ 照明器具のカバー・ルーバー						<input type="checkbox"/> R C造の壁・床スラブ・梁・柱の断熱材施工範囲(外壁芯から1m以上)の検討
	エ 蛍光管等						<input type="checkbox"/> 利用環境に適した材料(耐久性、吸音性、遮音性、強度及び耐震性)の検討
	オ 取付位置						<input type="checkbox"/> 板材の湿度変化による膨張や収縮の検討
	カ 電気盤						<input type="checkbox"/> 損傷時の修復を考えた汎用品及び既製品採用の検討
	キ 照度						<input type="checkbox"/> 体育館等の鋼製床組の高さ(メンテナンスを考慮)の検討
	ク 照明器具の機種						<input type="checkbox"/> 水廻りへの石膏系セルフレベルング材(自動平滑仕上)の使用(使用しないものとする)
	ケ 照明の配置						<input type="checkbox"/> 床モルタル塗り仕上(精度を要求する場合のみ)採用の要否の検討
	コ 電話設備						<input type="checkbox"/> 照明効率に配慮した高明度色内装材の採用
	(6)-2 機械設備						<input type="checkbox"/> 水切り、窓台、笠木等の検討(特殊形状及びカラー製品は使用しないものとする)
	ア 空調設備の方式選定						<input type="checkbox"/> 使用部位の形状統一、加工手間、施工費等の縮減の検討
	イ 屋外散水、トイレ洗浄水等						<input type="checkbox"/> 外部建具の仕様(引違いシルバーアルミサッシ、複層ガラスを標準)の検討
	ウ 機械室、シャフト面積及び配置計画						<input type="checkbox"/> 建具廻りからの漏水及び水切板からの埃水による外壁汚染の防止の検討
	(7) 安全性						<input type="checkbox"/> 沿岸部における塩害対策の検討
	ア 利用者の視点に立った設計						<input type="checkbox"/> 内部建具枠材の鋼製化及び鋼製軽量扉採用の検討
	イ バリアフリー、ユニバーサルデザイン						<input type="checkbox"/> 外部木製建具の仕様(はめ殺し窓にしない)の検討
	ウ 使用材料の安全性						<input type="checkbox"/> 再生骨材、再生アスファルト等リサイクル資材の活用
							<input type="checkbox"/> 構内舗装の路盤における凍上抑制層の検討
							<input type="checkbox"/> 建築物の南側及び西側の広い舗装面(駐車場等)における遮熱ゾーンの検討
							<input type="checkbox"/> 屋内外排水設備の連続性確保と豪雨時(50mm/h以上)の排水性能(勾配、機械能力)の検討
							<input type="checkbox"/> マンホール及びグレーチングの仕様(重機による除雪作業を考慮した耐荷重仕様)の検討
							<input type="checkbox"/> 機械室及び電気室における、配線、配管延長及び系統の経済性を考慮した検討
							<input type="checkbox"/> 省エネ型機器及び汎用性のある機器の採用による、熱負荷低減、結露発生抑制の検討
							<input type="checkbox"/> 効率の良い配置計画を前提とする廉価機器の選定
							<input type="checkbox"/> ゾーニング(照明のスイッチ系統、窓等からの採光の有無等)の検討
							<input type="checkbox"/> 所要室毎の経済性(ランニングコスト)を考慮した照度設定
							<input type="checkbox"/> 高効率化器具選定の検討(イニシャルコストとランニングコストの比較)
							<input type="checkbox"/> 実質照度移行の妥当性の検討
							<input type="checkbox"/> カバー・ルーバーの省略、照明効率をあげた設置台数削減の検討(VDT作業室は輝度規制を考慮)
							<input type="checkbox"/> 汎用品採用の検討
							<input type="checkbox"/> 器具方式の検討(交換の容易さ)
							<input type="checkbox"/> 標準盤採用の検討
							<input type="checkbox"/> 所要室又はゾーンの使用状況の考慮
							<input type="checkbox"/> 汎用品の採用と種類削減の検討(故障交換を考慮した選定)
							<input type="checkbox"/> 梁、天井の形状等を把握した照明効率の良い配置計画
							<input type="checkbox"/> 初期投資及び維持費を考慮した通信方式(IP電話等)の検討
							<input type="checkbox"/> 所要室又はゾーンの使用状況(使用形態や時間帯)に合わせた経済的方式の検討
							<input type="checkbox"/> 初期投資及び維持費を考慮した雨水、浄化槽処理水利用の検討
							<input type="checkbox"/> 機器更新時への配慮
							<input type="checkbox"/> 施設利用対象者の把握
							<input type="checkbox"/> 秋田県バリアフリー社会の形成に関する条例の遵守
							<input type="checkbox"/> 有害建材(アスベスト含有等)使用の確認

	<p>(8) 材料及び単価 ア 使用材料、機器の選定 イ 設計単価の採用 ウ 2次製品の活用</p> <p>(10) その他</p> <p>2 地域の独自性 (1) 秋田の気候、風土 ア 雪対策</p> <p>イ 結露対策</p> <p>ウ 風利用</p> <p>エ その他</p> <p>(2) 地場産材利用</p> <p>(3) 県の施策への対応 ア 秋田杉等県産材の活用 イ 県内産エコ製品の普及 ウ 自然エネルギーの採用</p>				<p><input type="checkbox"/> 資材単価、施工手間、工期等を含めたコスト縮減の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 市場単価又は見積単価の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 品質、性能、施工方法、価格、市場性等を考慮した活用</p> <p><input type="checkbox"/> 清掃作業への配慮</p> <p><input type="checkbox"/> 通行に支障のある突出物の有無と使用中の破損の予測検証</p> <p><input type="checkbox"/> 実数量表示設計と完成図書及び構造計算書の保存の徹底（解体設計の省力化と工事の安全性を確保）</p> <p><input type="checkbox"/> 雪おろしによる屋根材破損対策、雪処理スペースの確保</p> <p><input type="checkbox"/> 雪塊飛散距離の確保若しくは防護柵を設置</p> <p><input type="checkbox"/> 冬期季節風（北西の風）の風向に配慮した出入口位置の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 吹き溜まりによる出入口の閉鎖等機能障害対策</p> <p><input type="checkbox"/> 巻垂れによる窓等の破損防止対策</p> <p><input type="checkbox"/> 雨樋、外壁材の凍結による破損防止、すがもれ防止を考えた納まり</p> <p><input type="checkbox"/> 屋根雪落下による人身事故、物損被害の防止対策</p> <p><input type="checkbox"/> 勾配屋根形状の単純化（谷は極力設けない）</p> <p><input type="checkbox"/> 融雪期の融雪水の排水計画</p> <p><input type="checkbox"/> 除排雪箇所の縮小等配慮による維持管理費（除排雪費）の縮減</p> <p><input type="checkbox"/> 吸気口の位置（最多風方向及び排気口近傍を避ける）</p> <p><input type="checkbox"/> 外壁コンクリートの凍結融解による耐久性劣化や、内部結露による木材の腐朽、湿気カビ対策</p> <p><input type="checkbox"/> 冬期における発生結露対策（十分な結露受等の設置）</p> <p><input type="checkbox"/> 夏期の風向を考慮した通風経路の確保（換気、冷房負荷の低減）</p> <p><input type="checkbox"/> 袖壁、庇による利風（風の室内への導入効果大）効果向上の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 設置階又は水防区画の検証に基づく設備機器の設置位置の検討（浸水対策）</p> <p><input type="checkbox"/> 建設地域の地場産材、県内企業が開発した建築資材の採用（仕様及び単価等条件の範囲）</p> <p><input type="checkbox"/> 地場産の特殊技術製品の施設への利用の検討</p> <p><input type="checkbox"/> 「公共建築物の木造化及び内装木質化の推進に関する基準」の遵守、県産材使用の普及啓発</p> <p><input type="checkbox"/> 秋田県リサイクル製品認定制度による認定製品の使用</p> <p><input type="checkbox"/> 太陽光発電、風力発電、雪冷房及び地中熱利用等、新技術の活用</p>
実施設計	<p>・基本設計時の伝達事項及び確認事項の反映</p> <p>・採用単価の妥当性</p> <p>・各部詳細の納まり、施工性</p>	○	○	○	<p><input type="checkbox"/> 基本設計時の検討事項にかかる対応方針の反映状況確認</p> <p><input type="checkbox"/> 市場の実態に即した単価の採用</p> <p><input type="checkbox"/> 経済性及び施工性を踏まえた納まりの検討</p>
設計審査	<p>・設計意図の確認</p> <p>・設計内容の詳細確認（チェックリスト）</p> <p>・コスト管理</p> <p>・各種事故、災害防止対策の内容確認</p>	○	○	○	<p><input type="checkbox"/> 要求した設計条件の対応状況確認（打ち合せ内容の再確認、段階的審査の状況確認）</p> <p><input type="checkbox"/> 各種法令、基準及び指針等の適合状況、要求内容に対する完成度の確認</p> <p><input type="checkbox"/> コスト管理の実施内容確認</p> <p><input type="checkbox"/> 事故・災害対策の確認</p>
工事監督	<p>・設計意図との整合性・仕様、納まりの検討</p>	○	○	○	<p><input type="checkbox"/> 設計意図の伝達、検討、確認</p>
引き渡し	<p>・施設の完成引渡</p>	○	○	○	<p><input type="checkbox"/> 施設管理者への説明責任（施設保全マニュアル等の配布、適正点検及び管理徹底の周知）</p>
施設管理	<p>・定期的報告</p> <p>・雪害防止対策</p> <p>・修繕履歴の保管継承</p>	○		○	<p><input type="checkbox"/> 定期報告（施設管理者から事業課）による状況把握と適正管理</p> <p><input type="checkbox"/> 維持管理方法（雪処理の必要性及び方法）の周知</p> <p><input type="checkbox"/> 維持管理に必要な資料（取扱説明書、完成図書一式）及び修繕履歴の保管継承の徹底</p>
施設運用	<p>・評価のフィードバック</p>	○	○	○	<p><input type="checkbox"/> 瑕疵点検（指摘事項の検証）、施設管理者の評価、施設利用者満足度調査等の結果集約</p>

- * この手引きは、秋田県建設交通部営繕課、教育庁総務課施設整備室及び警察本部警務部会計課の建築関係職員で構成する策定委員会が、秋田県における公共建築物整備の基本事項のとりまとめを目的に検討した成果を編集したものです。

2005年12月20日 第1版

2013年 8月 9日 第2版（第1回改訂）

編集著作 秋田県建設交通部営繕課

〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1番1号

TEL (018) 860 - 2582 FAX (018) 860 - 3901

e-mail e-kikaku@mail2.pref.akita.jp
